

隠岐・出雲、恵まれ続けた4日間

旅を楽しむ会 “くつがなる” 小柳正純（商46）

好天に恵まれ、美味しいものに恵まれ、新しい縁に恵まれた素晴らしい旅……。5月中旬、旅を楽しむ会のメンバー18人が羽田空港に集まった。ほぼ定刻に羽田を離陸、伊丹空港で乗り継ぐ。

隠岐までは離島向けの双発プロペラ旅客機だ。「隠岐世界ジオパーク空港」に午後2時に無事到着。空港でサプライズ、慶應義塾の三色旗を掲げた隠岐三田会の皆さんが出迎えてくれた。



隠岐三田会は会員5人。そのうち会長さんやツアーリーダーの岡川さんの同窓、村上さん（隠岐しゃくなげ園代表）ら3人の方々がわざわざ駆けつけてくれた。

初夏の隠岐諸島の島巡りはモーモードームの牛突き観戦からスタート。800年前に始まった日本最古の闘牛とか。次いで水若酢神社を参拝、旅の安全と好天を祈願した。

第83代宮司からお祓いを受け、お神酒まで頂いた。隠岐しゃくなげ園では1万本のピンク



と白の可憐なしゃくなげが前日の雨にも負けず咲き誇っていた。オキシクナゲは隠岐の固有種。5月連休前後が見ごろという。夕刻に予定していたローソク島遊覧は波が荒れていたため舟が欠航、キャンセルになったが、これは次回のお楽しみということに。初日の宿は隠岐プラザホテル。部屋から隠岐の島町

・西郷港の全景が眺められる。

二日目は西ノ島、知夫里島を巡る。西郷港から西ノ島別府港へ。観光バスにガイドさんはいない。運転手がヘッドセットのマイクで観光案内しながら巧みにハンドルをさばく。「今日は五月に入って最高の天気」という。赤尾展望台から国賀海岸を一望する。大絶壁の摩天崖には馬と牛が放牧されている。絶景ポイントが続く。浦郷港から内航船で約二十分、知夫里島に渡る。赤ハゲ山からは360度のパノラマ、隠岐の島々がくっきり。次いで赤壁に向かう。真っ赤な岩肌が豪快だ。島根の名水百選の一つに選ばれている「河井の地藏さんの水」を味

わう。来居港から中ノ島・菱浦港へ。宿はマリン
ポートホテル海士。夕刻、「映画を楽しむ
会」世話人の中村知好さんがツアーに合流した。
昨年秋の四国旅行に続き、旅の模様をビデオ撮
影する。沈む夕陽を眺めながらの夕食会でメン
バー皆さんの旅の感想を撮影。夕食後、海中展
望船で夜光虫の観察ナイトクルーズ。船が動き始めると夜光虫が光り始める。



光が尾を引き、流れていく。光の乱舞にメンバーは舷側のガラス窓にくぎ付け。

三日目は隠岐神社へ。そこかしこに後鳥羽上皇が詠まれた和歌が飾られている。後鳥羽院
資料館にはゆかりの品々が展示されている。ここで隠岐諸島観光を切り上げ、フェリーで境
港へ。たっぷり 3 時間半。 境港に到着すると、ツアーのスタートに間に合わなかったメン
バーの奥様がツアーに加わった。中村さんが再会の場面をしっかりと撮影。境港から水木しげ
るロードへ。境港おさかなセンターでおみやげをゲット。牡丹の名所、大根島の由志園に向
かう。大輪の花、美しい苔の庭園が素晴らしい。中村さんとは、残念だったがここでお別れ。
今夜の宿は美肌の湯、玉造温泉随一といわれる佳翠苑皆美。夕食会で岡川さんがメンバーひ
とりに旅の感想をインタビュー。メンバーから「最高の旅だった」という声が相次いだ。

ツアー最終日。八重垣神社へ。縁結びのパワースポットだ。鏡の池で恋占い、メンバーの
数人がトライした。次いで国宝に再指定された松江城へ。天守閣まで急ぎ足。宍道湖が一望
できる。堀川遊覧船で城の堀を半周した。旅の締めくくりは出雲大社。この春に平成の大遷
宮を完了したばかりだ。ガイドは中学、高校の社会科の先生だった方で、メンバーはうんち
くが深い解説に耳を傾けた。例大祭の日で、神楽まで鑑賞できた。古代出雲歴史博物館を経
て、島根ワイナリーへ。地元産のワインをたっぷり試飲。出雲縁結び空港から帰京の途に。
夜の 9 時前、羽田空港に無事到着した。楽しい思い出がいっぱいの素晴らしい旅だった。

